

■『北武蔵の和算家』

著者 山口 正義(やまぐち まさよし)

発行所 まつやま書房

埼玉県東松山市松葉町3-2-5 電話0493-22-4162

発行者 山本正史

体裁 398頁 定価2,500円+税

発行 2018年2月26日

著者略歴

山口 正義(やまぐち まさよし)氏

1945年埼玉県毛呂山町生まれ。東京都羽村市に住む。千葉工業大学電子工学科卒業後メーカーにて通信機器等のソフトウェア開発・システム開発に永年従事。定年後地域の歴史や和算などを調査勉強中。

著書『尺八の歴史と音響学』(私家版、平成15年)『尺八史概説』(出版芸術社、平成17年)『天文大先生千葉歳胤のこと』(まつやま書房、平成21年)『飯能の和算家・石井弥四郎和儀』(私家版・平成24年)『やまぶき—埼玉北西部の和算研究の個人通信』(私家版・平成28年)他

小論『慈光寺の銅鐘は盤渉調なり』(埼玉史談、59巻3号)『千葉歳胤と児玉空々』(毛呂山郷土史研究会「あゆみ」、36号)『江戸宿谷氏の改易について』(同上、38号)『虚無僧の歴史の一断面—青梅鈴法寺を巡って』(同上、41号)『市川行英門人・石井弥四郎和儀のこと』(群馬県和算研究会会報、第50号記念)他

<選考理由>

『北武蔵の和算家』

これまであまり光の当たらなかった北武蔵(埼玉県北西部)の和算者達の人物紹介と扱った和算の問題を整理、記述した本である。

江戸期から明治にかけて、日本では西洋数学とは別のアプローチによる様々な数学の問題が設定・解法され、和算という分野が確立されていた。これを支えたのは職業としての和算家だけでなく、和算を学び、新たな問題へチャレンジする様々な身分の人たちが各地において、文化的な広がりを支えていたという特徴がある。

著者は関孝和を生んだ上州などと異なり、取り上げられることの少ない、今となっては名も忘れられた北武蔵のたくさんの算者達に、資料などの失われる前に光を当て、記録として残そうと丁寧な調査を進め実現している。さらに著者の意図を超えて、その時代の日本国内の純粋に知的意欲に基づく和算熱の広がりも想起させる。

かなりコアな内容であり、算術の問題も理解しにくいことから広く読書を勧められないという意見もあったが、忘れられようとしている地域の文化について書かれた貴重な本であり、郷土資料として図書館などに所蔵されるべきものであると思料、特別賞を贈ることとした。

なお、具体的な多数の資料、付録、索引の充実も今後の参考資料としての価値を高めていることを付け加えておく。